

平成 29 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名：グループホーム あったかいご神子田マルシェ(しずく)

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 0390100188 | | |
| 法人名 | 株式会社 三共医科器械 | | |
| 事業所名 | グループホーム あったかいご神子田マルシェ(しずく) | | |
| 所在地 | 岩手県神子田町6-12 | | |
| 自己評価作成日 | 平成 29 年 8 月 10 日 | 評価結果市町村受理日 | 平成30年1月16日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JiyosyoCd=0390100188-00&PrefCd=03&VersionCd=02 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|------------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会 |
| 所在地 | 〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号 |
| 訪問調査日 | 平成 29年 8月 25日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームでは、フロアを広く取り、陽光あふれる明るいリビングにゆったりとみんなで楽しく集う場、自由にありのままに暮らして頂く快適な空間を提供しております。裏庭に畑やミニ公園を造り、その人がその人らしい暮らしができるように支援しております。また、協力医と訪問看護との連携を図り、普段の健康管理や異常時、緊急時の対応が敏速に出来る体制をとっております。医療機関との協力体制をとり看取りも行っています。地域での関わりでは、夏祭り等の協力や参加、町内の避難訓練や施設の避難訓練を互いに参加し合うなど、地域の繋がりも持ちながら会社としての理念「共に和み 共に生きる」を軸に施設理念「心・和・楽・笑」をモットーに地域に根ざした施設を目指しております。安全で快適な暮らしができるよう、職員一人一人の質の向上を図りながら取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームマルシェの理念を「心和楽笑(しんわらくしょう)」とし、職員全員で振り返りながら実践に努め、その理念を基に、1階と2階個々の目標を掲げ、職員は理念の実現に日々努力している。1階と2階の共用の広いホールは、それぞれの利用者の状態に合わせた配慮がされ、ゆったり生活していることが窺われる。裏庭には公園のしつらいをし、ミニ公園とするなど、随所にホールや庭など職員の工夫が感じられる。かかりつけ医や事業所の協力医、訪問診療医、訪問看護等、複数の関係機関と連携を密にし、適切な医療の提供と健康管理を実施している。また、利用者と家族、医療関係者とともに、チームで看取り支援を実施している。町内会の避難訓練や事業所の避難訓練に相互に参加し合う等、地域の一員として理解と協力が得られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

平成 29 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム あったかいご神子田マルシェ(しずく)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 管理者が代わり新体制となり、徐々にではあるが新体制のもと、「共に歩み 共に生きる」の理念を職員間で共有し合い、入居者様、家族様が安心して過ごして頂けるよう支援している。 | 会社の理念として、「共に和み、共に生きる」を掲げている。なお、事業所として、全職員で作成した理念「心和楽笑」を共有し、日々の介護で践されているか、会議や研修で意識付けしている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 季節毎に地域の行事に入居者様が参加したり、施設の行事に地域の方々や家族様の参加を呼びかけ、交流できる機会を設け活用している。 | 町内会の関心が高く、開設時から地域の方が事業所の夏祭り等の行事に参加している。事業所も、地区の万灯祭りや避難訓練に参加している。事業所が、水害・地震の避難場所になっている。また、地域には独居の高齢者が多く、衣料品の移動販売車を招致し、利用者共に活用している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議で現状や出来事、対応などをお伝えし知っていただくことと、地域の行事、施設の行事を互いに参加し合うことで、直接見て感じていただき、地域の方々や家族様に理解していただいている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2か月に1回開催し、地域の方々や家族様に参加していただき、事業所の取り組みの報告や、意見交換を行っている。会議の際に避難訓練や防犯訓練(不審者対応等)を行い、地域の方々や家族様にも参加していただいている。 | 会議には、町内会長、民生委員、保健衛生推進員、中ノ橋交番、包括支援センター、家族代表が委員として参加している。活動報告の他に、委員と一緒に、避難訓練を行い心肺蘇生法も体験している。今年は、管轄の交番の手助けを得て防犯訓練(不審者対応)も行っている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議の会議録や施設新聞を届け、報告を行いながら、情報等も頂いている。行政の届け出の相談をし、不明な点は回答を求めたりしている。認定調査の際にも相談に乗っていただいている。 | 市の担当課とは、直接出向いて運営推進会議録を届けたり、認定調査や運営について相談したりと連携を図っている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 月一回の会社内のヒヤリハット委員会にて事例検討を行い、どのケースが虐待に当たるのか話し合い、それを事業所に持ち帰り、会議で再度話し合い、現状と照らし合わせ、疑問やグレーゾーンの検討に取り組んでいる。 | 身体拘束については、内部での研修を重ねており、職員相互に確認・相談しあうなど、意識が高くなっている。また、会社のヒヤリハット委員会に管理者が参加し、検討事例を会議で再度話し合い、身体拘束をしないケアの考え方等について理解を深めている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待防止に関わる研修を行ったり、会議等で話し合いの場を持ち、日々の介護を振り返り照らし合わせ、防止に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。 | 1階フロア、2階フロア、それぞれが月に2回の会議を開き、話し合い活用できるように支援している。また、外部研修に職員が参加し学習の機会を作っている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。 | 契約時に家族様には、不安や疑問な点ははないか伺い、納得していただけるまで、説明をさせて頂いている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。 | 運営推進会議を設け、家族様にも参加して頂き、注意してほしい事や希望する点を伺い、運営に反映させている。 | 運営推進会議に、各ユニットから1名ずつ委員として参加している。家族に、利用者の近況を記したマルシェ新聞を送付し喜ばれており、家族の希望で、スナップが見やすいようA4からB4に変更している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。 | 月に2回の会議等で、職員の意見や提案を聞き、それを話し合い、反映させている。 | 会社を挙げてアメーバ経営に取り組み、職員の意識を高めている。1階では、気づいたときに直ぐ投稿できるよう、職員用意見箱を設置している。意見は会議で検討し、方針を決定し実践している。2階では、気づきを申し送りノートで共有し、会議で意見提案を聞き、運営に反映させている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。 | 人事考課表を記入し、それをもとに面接を行い、個々の勤務状況を把握し、職場環境の整備に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。 | 職員の意見を聞き、問題の解決をできるように話し合いを行ったり、研修に参加する機会を作っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。 | 交換研修を行い、他事業所の情報を得て、みんなで様々な介護の在り方を知ることができている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居者様が言葉にしたことはもとより、表情や行動などにも注意をし、思いを汲み取るように努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 雑談などを通して、リラックスした雰囲気作りをし、信頼関係を築きながら、要望や不安等を引き出すように努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居者様、家族様との面談の内容をまとめ、優先順位をつけて、優先とするものから、広い視点でサービスを導入している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 傾聴で理解を深め、より身近な立場として援助している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 入居者様の状態は随時報告し、必要時には家族の協力を得ながら共に支え合っている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 馴染みの場所については、体力や体の状態の障害があり、実施できていないが、人については家族様も含め面会をされるよう奨励している。 | 利用開始時に、家族や友人の面会を勧めており、毎日来られてる家族もいる反面、馴染みの場所への外出は、年々困難になってきている。理美容については、男性も女性も訪問美容を利用し、美容師さんと馴染みの関係が築かれている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 入居者様の多くは、臥床時以外フロアで過ごされ、それぞれの個性を受け入れ強調しながら生活している。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 亡くなられてのサービス終了が多くあるが、退所にてサービス終了した方々に関しては、ご家族様の相談やご本人の話を聞き、退所後の支援をしている。関係性を築き援助の体制をとっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居者様の意向を中心に、家族様の要望も聞き、一人一人のプランを立てて、モニタリングを行い、何が入居者様にとって暮らしやすいのか検討し、対応している。 | 家庭と事業所では生活のニーズが変わってくることから、暮らしの継続を念頭に、利用者意向の把握に努め、また、家族や関係者からの情報を大切にしている。職員間では、ベテランと新人の視点の違いも大切にし、利用者の思いを検討している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 家族様や入居者様がこれまで利用してきたサービスや施設からの情報で把握したり、一緒に生活していく中で会話や観察を行い把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 心身状態は毎日違うので、その日の状態の把握に努め、状態に合わせて無理なく暮らして頂いている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 3か月に1度のモニタリングを行い、状態が変わった場合は話し合い、ケアプランに反映させている。 | 利用者ごとの担当職員が中心となり、アセスメントとモニタリングを実施し、職員会議で、計画を見直している。なお、状態が変わった場合は、職員間で話し合いをし、速やかに計画に反映させている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別に記録を記入し、即座に意見を出し合い、対応をし何が最も適切か検討して、計画の見直しをしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 入居者様や家族様の状態や要望に応じて、往診クリニック、訪問歯科、訪問理容、訪問マッサージのサービスを取り入れている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 運営推進会議の場を活用し、町内会と連携し、地域の季節ごとの行事への参加を行い、季節の変わりを感じてもらっている。ボランティアを呼ぶことにより、日々の暮らしに刺激を与えている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居者様は各々医療機関を決めており、定期的に受診、往診を受けられている。定期的な家族様による通院が困難になってきた際は、相談を受け、往診の紹介も行っている。 | 入居前のかかりつけ医を継続し、定期的に受診、往診を受けている。受診時は、家族に、医師への連絡表を渡し、結果を職員間で共有している。薬を届けてくれる薬剤師に不明なことは相談している。歯科については、定期的に口腔ケアを実施し、必要時訪問歯科診療を受けている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 週1回訪問看護を受け、状態の変化を伝え相談している。緊急時の際も電話にて相談し、状況に応じては来ていただき相談させていただいている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院中も入居者様への面会を行い、不安の解消に努め、病院関係者と情報交換や相談を行い、入居者様の状態等を把握し、退院後にすぐに元の環境になじめるように努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。 | 訪問看護と連携し、看取りの研修を開き、職員の看取りへの理解を深めている。家族様へは施設からの説明はもとより、状況に応じて訪問看護からも説明していただき、家族様の不安を解消し、入居者様とともに安心した終末期を過ごして頂けるよう取り組んでいる。 | 入居時「重度化した場合の対応に係る指針」を説明し、本人・家族の意向を確認している。家族や協力医、訪問看護師との連携のもと、開設以来、複数名の看取りを経験している。職員は、訪問看護師と連携し、看取りの研修を行なっている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 定期的に研修を開き、また外部研修にも参加し実践力を身に付けている。緊急時対応マニュアルを作成し、常時回覧できるようにしている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 目につきやすい場所にハザードマップを貼り、避難経路、避難場所を覚えるようにしている。消防立ち合いのもと避難訓練を行い、緊急時に対応できる体制を築いている。 | 町内会との協力体制のもと、消防署の協力を得て、年2回避難訓練を実施している。昨年実施した夜間の避難訓練の課題をまとめ、現在対応を検討している。「防災必携パンフレット」「災害時の避難マニュアル」を作成中である。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | その人に合った声掛けや会話を行い、大切にしている事や思いを模索し、人格を尊重しながらその人に合ったケアをするよう心掛けている。 | 会社の接遇研修を全職員が受講している。排泄時や入浴時の誘導、更衣時に個人情報などを大きい声で話さない等、プライバシーの確保に留意している。口の中を見られるのが恥ずかしいといわれる方もおり、個々に合ったケアを心がけている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 常日頃から傾聴することを心掛け、思いや希望に添えるようにしている。また、自己決定が難しい時には職員側から提案し、納得し受け入れてもらえるよう心掛けている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人ひとりのペースに合わせてながら、より過ごしやすい環境を整え、快適な生活が送れるよう努めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 清潔を保ちながら整容していただき、出来ないところをお手伝いし、その人に合った身だしなみやおしゃれを楽しんでいただくように支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | おしぼり作りやテーブル拭きなど、入居者様ができることをお手伝いして頂いている。季節に合った献立を作成し提供するようにしている。また、新鮮な食材を利用している。 | 献立の作成や調理、盛り付け、おしぼり作り、テーブル拭き、野菜の収穫など、出来ることは一緒に行なっている。正月にはおせち、ひな祭りには散らし寿司等の行事食を楽しみにしている。家族を招待して食事会「秋を食べる会」を実施している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事及び水分の摂取量は常に記録し、職員全員が把握できるようにしている。介助が必要な方や、摂取量が少ない方は声掛けをし、摂取して頂くようにしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後に口腔ケアを行い、義歯、口腔内の清潔を保つようにしている。定期的に義歯の洗浄剤を使用し、清潔を保っている。また、希望者には訪問歯科による口腔ケアを提案している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表を利用し、排泄のパターンをつかむようにしている。また、定時のトイレ誘導、声掛けを行うことによって排泄を促し、失敗することのないように支援している。 | 日々の記録から、排泄パターンを把握し、声かけ誘導し、トイレでの排泄を支援している。また、職員勉強会で排泄をテーマにし、ケアの向上に努力されている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 毎朝乳製品の摂取や、食物繊維の多い食品を食事に取り入れることにより、自力にて排便がされるよう工夫している。また、便秘の見られる際は、医療機関への相談を行っている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 気分良く入浴できるよう、入浴の声掛けを工夫したり、入浴中の会話を盛り上げるようにしている。また、入居者様が入浴に気が向かない時は時間を置いたり、翌日に回したりと、入居者様のペースに沿う支援をしている。 | 週3回入浴できている。気が向かない様子の際には、時間を置いたり、翌日に行くなど、利用者のペースに添う支援をしている。介助しながら、利用者と一緒に歌ったり話したり、絶好のコミュニケーション機会となっている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 就寝準備後はある程度自由な時間を設け、個々のタイミングで入床できるよう見守りを行っている。不眠が続く際は、医療機関に相談している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬の内容に変更があった場合は全職員への周知を行っている。服薬確認表を作り適切な支援ができるよう心掛けている。服薬にて変化が見られた際は医療機関へ相談している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 入居者様や家族様から生活歴を拝聴し、支援に活かせるよう参考にしている。机に向かうのが好きな方場合は設置し、生け花を習ってきた方には花を見せたりと、昔を思い出して頂いている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | 季節行事や地域の祭りごとには外出を呼びかけ、外の空気に触れてもらっている。外出時の身だしなみ、入居者様の体調などは、できるだけ本人様の希望を聞き出し、意向に沿うよう支援している。 | 以前より、重度化し、外出の機会が減っているが、季節を楽しむ外出(高松の池の花見、肴町商店街の七夕、地域の行事や祭り見物等)をしている。町内の散歩やミニ公園(園庭)での外気浴を行なっている。外出時には、身だしなみに配慮している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ほとんどの入居者様がお金を所持しておりません。買い物や要望があった際は、家族様に相談し、立替えを行っています。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話の要求はあまり聞かれないが、手紙を送りたいといった際には、ハガキを購入しお渡しし、対象者(送付先の方)が面会に来られた際にお渡しするようにしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節に応じて室温や湿度の調節を行い、体調の変化がないように努めている。装飾は月ごとに季節に合ったものに変え、季節を感じられるようにしており、あまり派手なものにはせず、落ち着いた雰囲気のあるものにし、不快や混乱を与えないように配慮している。 | 1階は車椅子使用の方が多く、広いホールに、食卓、ソファ、テレビがゆったりと配置されている。2階は、利用者同士の関係性を考慮した食卓等の配置がされている。また、ホールの飾りつけも、それぞれ個性があり、寛げる雰囲気になっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 椅子席だけではなく、ソファなども設置し、個々に合った場所で過ごして頂けるように工夫している。また、気の合う方々で過ごして頂けるように、席の配置にも配慮している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 自宅にて使い慣れたものを持参して頂き、部屋をそのまま持ってきたようにし、環境の変化を感じさせないように配慮している。レイアウトも入居者様が居心地よく過ごせるように、また、危険性が少ないように工夫を行っている。 | 居室は、電動ベッド、洗面ユニット、エアコン、換気扇、クローゼットが備え付けてある。椅子やテーブル等を持参し、家族と一緒に配置をしている。掃除は行き届き、整頓されている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | ホール、居室問わず、自由に過ごして頂いている。入居者様の見守りが可能なように職員は動き、必要な時に必要な支援をできるように努めている。 | | |